

6. ベトナムにおける医療（婦人科・エコー・病理・放射線・内視鏡・総合診断分野）人材育成事業

学校法人 国際医療福祉大学

【現地の状況やニーズなどの背景情報】

ベトナムでは経済発展に伴い生活習慣病患者が増加し、より高品質の医療への関心やニーズが高まりつつある。しかし現地における検査・診断技術レベルが充分でないことが課題となり、当該分野の人材育成と技術レベル向上の取り組みを対象機関と合意した。昨年婦人科・エコー・病理診断分野から開始し、事業二年目の本年は放射線・内視鏡・総合診断分野を加えて予防医学全般を網羅するようにした。

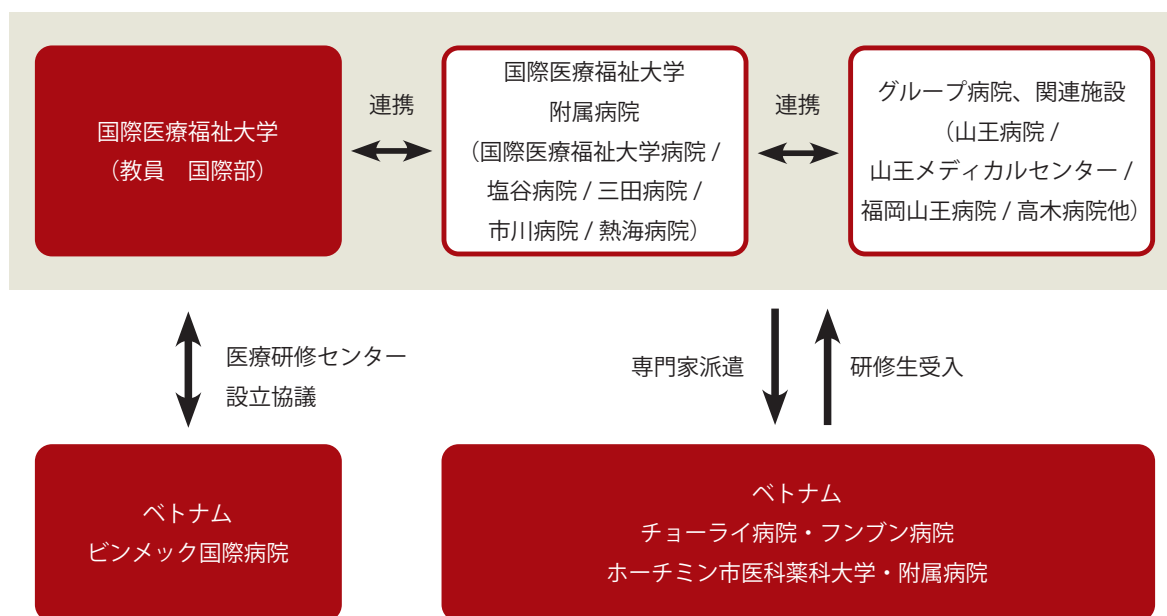
【事業の目的】

本事業は、ベトナムのホーチミンを中心とした南部地域における予防医学分野全般（婦人科・エコー・病理・放射線・内視鏡・総合診断）の診断技術を、本学グループが有する日本式ドック健診スキルの移転によって向上させることを目的として実施する。

また、ハノイを中心とした北部地域においては、現地企業ビングループが運営する民間病院（ビンメック国際病院）と日本式ドック健診センター事業の共同取組み準備を進めており、ビンメック国際病院の施設内に医療人材育成と日本製最新健診機器振興のための拠点整備を目的とした協議を行う。

【研修目標】

- ・ 婦人科・エコー・病理・放射線・内視鏡・総合診断分野において必要となる診断知識・技術を備えた医師・技師を育成し、日本式ドック健診実施に必要な水準の技術移転を行う。
- ・ また、医療人材育成と日本製最新健診機器普及のための拠点整備協議を実施し、大学として医療研修センターを設立する。



研修の様子 (1)



(婦人科分野研修)



(エコー分野研修)



(病理分野研修)



(病理分野研修)

こちらは婦人科、エコー、病理分野の研修の様子です。各分野共短期研修を中心に計画していましたが、病理分野では受入体制を整えることが出来たため日本に於ける2カ月に渡る長期研修を実施し、将来のリーダー候補育成を行いました。

研修の様子 (2)



(放射線分野研修)



(内視鏡分野研修)



(総合診断分野研修)



(総合診断分野研修)

こちらは放射線、内視鏡、総合診断分野の研修の様子です。各分野共業務に直結した実践的な研修を行いました。

2019年度成果指標とその結果

	アウトプット指標	アウトカム指標	インパクト指標
実施前の計画	①以下診断技術レベルへの到達 (指導医の判定との一致率) ・婦人科:子宮頸部細胞採取、経膈 エコー検査における一致率90% ・エコー:頸動脈、乳腺、腹部診断に おける一致率90% ・病理診断:子宮頸部細胞診、胃・ 大腸生検細胞の一致率90% ・放射線:画像所見と指導内容にお ける一致率90% ・内視鏡:上部下部消化管画像検 査判定における一致率90% ・総合所見と指導内容における一 致率90% ②ハノイに医療研修センターが設立さ れ運営が開始される。	一年間の事業実施の後、各分野にお いて研修成果を取り入れた診療を 実施する。年間合計10,000件の実施を 当面の目標とする。 (内訳) ・婦人科 600件 ・エコー 2,200件 ・病理 600件 ・放射線 2,200件 ・内視鏡 2,200件 ・総合診断 2,200件 合計 10,000件	①ベトナム国内と日本の複数医療施 設を専用インターネット回線でつない だ病理・放射線遠隔診断システムの 本格運用が実施され、疑問の生じた 症例について日本のコンサルテーシ ョンをおこなうことで継続的な指導がな される。 ②正しい診断が可能になることにより、 各検査分野における有病率が正しく 把握できるようになる。
結果	①診断技術レベル ・婦人科: 一致率90% ・エコー: 一致率90% ・病理診断: 一致率95% ・放射線: 一致率90% ・内視鏡: 該当なし ・総合診断: 一致率90% ②設立に向けた課題整理が進んだ。 また日本製医療機器・システム導入 を実現した。	分野ごとの隔りはあるものの年間合計 10,000件の実施目標は達成される見 込み。	①本学三田病院、成田キャンパスと の間で両分野の本格運用が開始さ れ、HECI健診センター病理全検体・ 放射線全面像のダブルチェックを 実施し、更に疑問の生じた症例につ いてはコンサルテーション指導を行 っている。 ②引き続き診断数の拡大と情報収 集が必要である。

2019年度の成果指標と結果について報告します。

アウトプットの指標としては、婦人科、エコー、病理、放射線、内視鏡、総合診断の各分野で個別の項目を定め、本学の指導員の判定にいか研修生の判定を近づけるかを目指しました。各分野とも開始時点では指導員の判定との一致率が約60～70%でしたが、日本での研修と現地での研修及びその後の遠隔での指導により、研修の終了時には各分野とも9割を超える一致率を達成しました。

アウトカム指標としては、1年間の事業実施後、各分野において研修結果を取り入れた診療の実施することを掲げ、ホーチミン市で本学とチョーライ病院が運営するHECI健診センターにおいて、当面の目標とした年間合計10,000件の実施を達成する見込みです。

インパクト指標としては、ベトナム国内と本学が日本に有する複数医療施設を専用インターネット回線でつないだ病理・放射線遠隔診断システムの本格稼働を挙げました。本学三田病院、成田キャンパスとHECI健診センターの間で両分野の本格運用が開始され、更に疑問の生じた症例についてはコンサルテーション指導を実施しています。また、正しい診断が可能になることにより各分野におけるベトナムでの有病率が正しく把握するという事を挙げましたが、これについては引き続き診断数の拡大と情報収集が必要です。

事業成果

- ・ 一年目
 - ・ 婦人科・エコー・病理分野の基本的診断スキルを向上させることが出来た。
 - ・ ベトナムと本学日本施設間で病理・放射線遠隔診断コンサルシステムを構築し、運用を開始することが出来た。
- ・ 二年目
 - ・ 放射線・内視鏡・総合診断分野に対象を拡大し、また産婦人科専門病院・フンブン病院をパートナーに加えて、ドック健診全般を網羅して診断スキル向上に取り組むことが出来た。
 - ・ 病理・放射線遠隔診断コンサルシステムの本格稼働が実施された。
 - ・ ハノイ市ビンメック国際病院との間で共同医療研修センター構想を検討し課題整理が進んだ。
 - ・ ビンメック国際病院における日系医療機器の進出を支援し納入成果を上げた。

今後の課題

- ・ 三カ年計画最終年度となる次年度の取組み課題は以下の通り。
 - ・ 目標とする日本式ドック健診実施に必要な水準の技術移転に向けた、掲げた6分野における診断技術レベルの一層の向上。
 - ・ 併せて、日本式ドック健診ならではの効率的かつきめ細かいサービス実現のための看護師・事務職員
の技能・接遇向上。
 - ・ 共同医療研修センターの設立合意の達成及び日本製医療機器の普及への注力。

事業開始以降の成果としては以下が挙げられます。

1年目には婦人科・エコー・病理 分野の診断技術の基本的なスキルを向上させることが出来、また病理・放射線遠隔診断のコンサルシステムの構築が完了し運用が開始されました。

2年目には放射線・内視鏡・総合診断分野に対象を拡大し、また産婦人科専門病院であるフンブン病院をパートナーに加え、ドック健診全般を網羅して診断スキル向上に取り組むことが出来ました。また病理・放射線遠隔診断コンサルシステムの本格稼働が実施されました。

ハノイ市ビンメック国際病院との間では共同医療研修センター構想を検討し課題整理が進むと共に、同病院における日系医療機器の進出を支援し納入成果を上げました。

3カ年計画最終年度となる次年度の取り組み課題は以下の3点です。

- ①目標とする日本式ドック健診実施に必要な水準の技術移転に向けた、掲げた6分野における診断技術レベルの一層の向上
- ②日本式ドック健診ならではの効率的かつきめ細かいサービス実現のための看護師・事務職員の技能・接遇向上
- ③共同医療研修センターの設立合意の達成及び日本製医療機器の普及への注力

現在までの相手国へのインパクト

医療技術・機器の国際展開における事業インパクト

- ・ 事業で紹介・導入し、相手国の調達につながった医療機器の数
ビンメック国際病院において以下の日本製機器・システムが導入された。
CT1台 MRI2台 エコー10台 マンモグラフィ1台 内視鏡5台 健診システム1式
- ・ 事業で紹介・導入し、国家計画／ガイドラインに採択された医療技術の数
該当なし

健康向上における事業インパクト

- ・ 事業で育成(研修を受けた)した保健医療従事者の延べ数
本邦での研修 延べ22名、現地研修参加者 延べ135名
- ・ 期待される事業の裨益人口(のべ数)
ドック診断を受ける患者数 延べ8,000人

事業開始から現在までの相手国へのインパクトについて説明します。

医療技術・機器の国際展開における事業インパクトとしては

1. 事業で紹介・導入し、相手国の調達につながった医療機器の数として、ビンメック国際病院において日本製機器・システム（CT1台 MRI2台 エコー10台 マンモグラフィ1台 内視鏡5台 健診システム1式）が導入されました。
2. 事業で紹介・導入し、国家計画／ガイドラインに採択された医療技術の数は該当がありません。

健康向上における事業インパクトとしては

1. 事業で育成(研修を受けた)した保健医療従事者の延べ数：本邦での研修 延べ22名、現地研修参加者 延べ135名
2. 期待される事業の裨益人口(延べ数)：ドック診断を受ける患者数延べ8,000人

将来の事業計画

- ・ 婦人科・エコー・病理・内視鏡・放射線・総合診断の6分野を網羅して、広範な予防医学診断のレベル向上に取り組むとともに、看護師・事務職員の技能・接遇向上にも取り組み、日本式ドック健診ならではの効率的かつきめ細かいサービスの定着を図る。延いてはベトナムの予防医学水準の向上に貢献する。
- ・ 今後、北部ハノイ市に共同医療研修センターを設立して、北部地区においても上述分野のレベル向上に取り組むと共に、日本製医療機器を導入して、ベトナムに於ける日本製医療機器の認知度向上、普及を推進する。延いては日本製の高度医療機器の使用によりベトナムに於ける病気早期発見・早期治療に貢献する。

最後に展開推進事業の目的に照らした将来の事業計画について説明します。

まず、婦人科・エコー・病理・内視鏡・放射線・総合診断の6分野を網羅して、広範な予防医学診断のレベル向上に取り組むとともに、看護師・事務職員の技能・接遇向上にも取り組み、日本式ドック健診ならではの効率的かつきめ細かいサービスの定着を図り、延いてはベトナムの予防医学水準の向上への貢献を目指します。

また、今後北部ハノイ市に共同医療研修センターを設立して、北部地区においても上述分野のレベル向上に取り組むと共に、日本製医療機器を導入して、ベトナムに於ける日本製医療機器の認知度向上普及を推進し、延いては日本製の高度医療機器の使用によりベトナムに於ける病気早期発見・早期治療に貢献することを目指します。